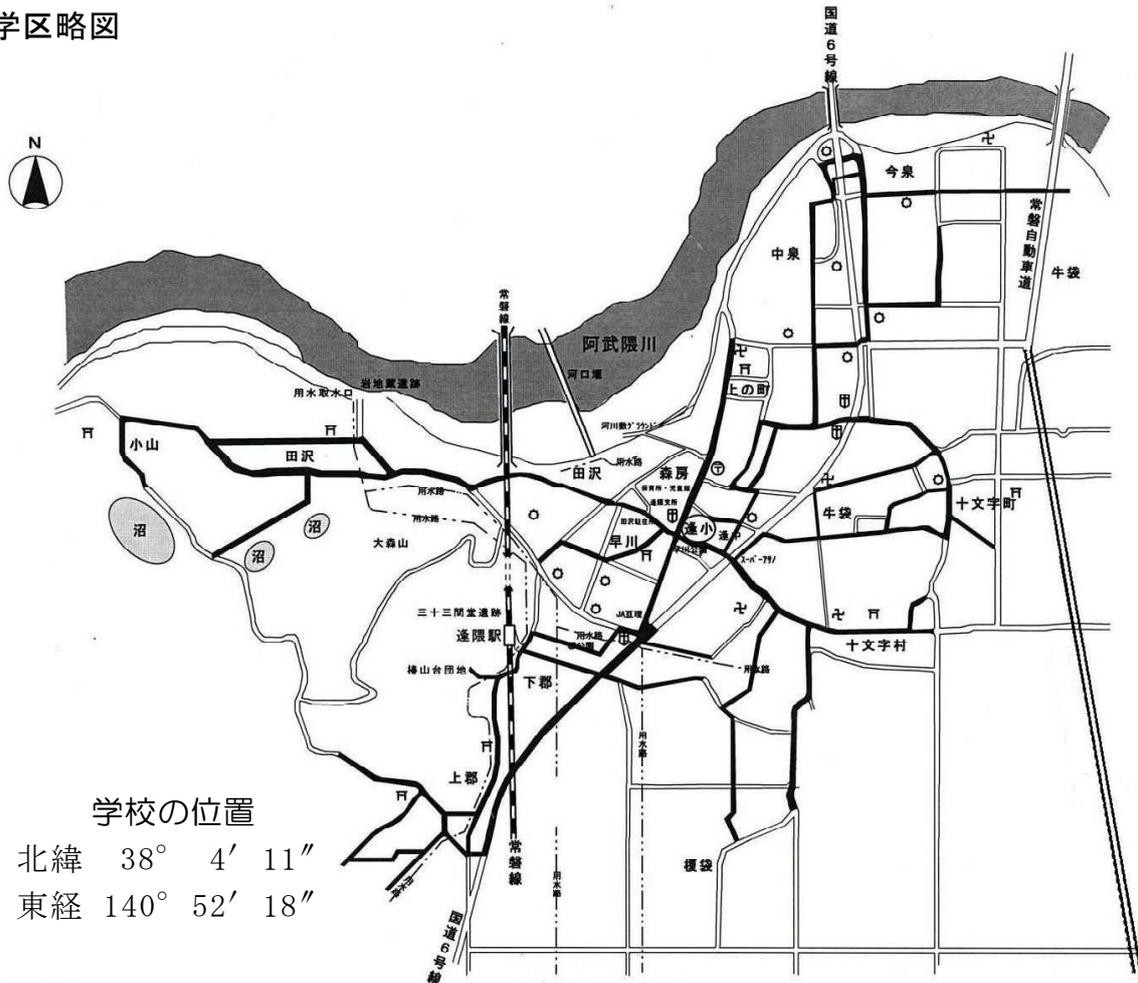


# 地域の概要

## ○学区略図



学校の位置  
北緯 38° 4' 11"  
東経 140° 52' 18"

## ○地域の概要

亙理町は、仙台から南へ約26km、阿武隈川を挟んで岩沼市と隣接している。西に阿武隈山地、蔵王連峰を望み、東は太平洋に面し、温暖な気候で豊かな農村地帯である。

本校学区は町の北部にあり、中央部を国道6号線、JR常磐線が走っている。昭和63年8月には逢隈駅が開業、平成13年に東部道路の亙理インターチェンジが開通し、交通も便利になった。それに伴い交通量が増加し、農業用水路等の潜在的危険箇所も含め、学校・家庭・地域が連携をとりながらその対応に当たっている。

東西約8km、南北約5kmの学区には、13の行政区（上郡、下郡、小山、田沢、早川、森房、上の町、今泉、中泉、牛袋、十文字町、十文字村、榎袋）があり、3,179世帯/10,011人（平成26年1月末現在）が居住している。また、学区内には亙理町文化財（田沢磨崖仏、三十三間堂官衛遺跡、堤の内横穴群、榎貝塚、十文字館跡等）が点在している。

産業は、米作りを中心とした農業が盛んである。近年、経営の多角化により、温暖な気候を生かしたリンゴ等の果樹やいちご、春菊、キュウリ、花卉等のハウス栽培が普及している。

恵まれた交通条件により工場進出も進み、地元就労が増えるとともに、仙台圏のベッドタウンとして人口も増加している。また、東日本大震災以降は、沿岸部や福島県からの転入もみられる。

児童は、元気な挨拶をよき伝統として大切にしており、チャレンジランニングなど目標に向かって努力しようとする意欲が高い。地域の人々の教育に対する関心も高く、学校教育や心身ともに健やかな児童を育成することに関しても大変協力的である。

東日本大震災以来、工事車両等の急増により学区内の交通事情が一変しており、保護者や地域、そして警察と連携した交通安全の確保が重要な課題である。